社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和07年11月21日

計画の名称	温泉場地区における街なみ環境の向上													
計画の期間	平成３１年度　～　令和０５年度　(5年間)											重点配分対象の該当		
交付対象	湯河原町													
計画の目標	温泉場地区の玄関口となる広場や、滞留空間及び回遊性を生み出すための広場、通路等の整備を行うとともに、歴史と伝統を誇る湯河原温泉の「温泉場」としての風情のある街なみづくりを行うことにより、湯河原温泉の歴史・文化や街歩きの楽しさを味わうことのできる住環境づくりを目指します。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	406	A	406	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H31当初	－	R５末
1	万葉公園の施設の年間利用者数を63千人（H29年度実績）から73千人（R５年度末）に増加			
	万葉公園の施設の年間利用者数：公園内の施設（足湯施設「独歩の湯」）の利用者数を調査する。	63444人／年	人／年	73000人／年
2	万葉公園周辺駐車場利用台数を16千台（H29年度実績）から17千台（R５年度末）に増加			
	万葉公園周辺駐車場利用台数：万葉公園駐車場の代替えとして確保する駐車場の駐車台数を調査する。	16311台／年	台／年	17300台／年
3	事業地区内における修景整備件数を５件（R５年度末）とする。			
	修景整備件数：事業地区内における建築物、建築設備、広告物、外構等の修景整備件数を調査する。	0件	件	5件

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000697582

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H31	R02	R03	R04	R05	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	湯河原町	直接	湯河原町	－	－	温泉場地区　街なみ環境整備事業	地区施設整備（広場、通路）	湯河原町	■	■				362	3.75	－
	A16-002	住宅	一般	湯河原町	間接	民間	－	－	温泉場地区　街なみ環境整備事業	修景施設整備	湯河原町	■	■	■	■	■	44	3.75	－
											小計						406		
											合計						406		

案件番号：　0000697582

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
湯河原町まちづくり課にて評価を実施	令和７年11月
	公表の方法 湯河原町ホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	温泉場地区の玄関口となる広場や、滞留空間や回遊性を生み出すための広場、通路等の整備により「温泉場」としての歴史・文化や街歩きの楽しさを味わうことのできる住環境づくりに寄与した。今後も引き続き「温泉場」の付加価値を高め、温泉場地区の更なる活性化を期待したい。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	修景整備について重要性を理解していただいたことで、新たな賑わいを創出することができた。

○特記事項（今後の方針等）

・温泉場地区内の企業や関連会社と連携し、湯河原温泉の歴史・文化を公園施設を中心に発信し観光振興を目指す。
・温泉場地区内の修景について、規制・誘導を図る。

案件番号： 0000697582

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最　終 目標値	73000人／年	湯河原町全体の観光入込客数は、コロナ禍から回復傾向にあるものの依然としてコロナ禍前の水準までは回復しておらず、地域全体への来訪が伸び悩み、このような観光回復の遅れもあり、万葉公園への来訪者も増えにくく、目標値まで達することができなかった。なお、当初現況値においては公園内の施設（足湯施設「独歩の湯」）の入場券で利用者数を把握していたが、自然を生かしたテラスを整備し観光客の回遊性を高め、滞在時間の伸長による地域活性化を目指すため、現在の万葉公園は１階カフェの商品購入者数・２階ワーキングスペースの利用者数を実績値の対象としており集計方法を変更している。
	最　終 実績値	44736人／年	
2			
	最　終 目標値	17300台／年	温泉場地区の玄関口としての街なみ環境整備により、湯河原温泉の歴史・文化を味わえる場として付加価値を与えたことで、街歩きの魅力が増し目標値を上回る結果につなげることができた。
	最　終 実績値	19608台／年	
3			
	最　終 目標値	5件	修景整備をすることが温泉場地区全体の魅力向上につながることについて、理解を得ることができたため目標値に達した。
	最　終 実績値	5件	